

63001

①ケアの本質

S

奈倉道隆

〔授業題目〕介護福祉のもとになるもの

〔概要〕「人間と社会」の視座にたつて介護ニーズを多面的に理解し、生活の基本的欲求に基づく医療・リハビリテーション・社会福祉援助・心理相談等と協働する介護のあり方や倫理を学ぶ。

〔到達目標〕各種ケアと協働しつつも、人間の尊厳・権利擁護・自立支援等の介護の理念が貫徹できる倫理的な介護の専門職となること。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------------------|--|
| 1 介護における尊厳の保持・自立支援について学ぶ。 | 9 介護の日常的な相談とカウンセリングとの連続性と独自性を考える。 |
| 2 社会関係の意味と、これに基づく介護福祉実践の基本的立場を学ぶ。 | 10 終末期支援に参加する介護職の役割と、協働の進め方を学ぶ。 |
| 3 利用者の社会性・全体性・主体性・現実性を重視する原理を学ぶ。 | 11 国際分類 ICF をリハビリテーションと共有して実践する介護について学ぶ。 |
| 4 介護福祉の中核となる評価・調整・送致・開発・保護の方法を学ぶ。 | 12 生命倫理・医の倫理の現代的課題を踏まえて、介護倫理を考える。 |
| 5 尊厳・人権・自立・自律等の介護福祉の価値の実現について考える。 | 13 福祉専門職としての介護福祉士・社会福祉士の職業倫理を考える。 |
| 6 医療や看護と協働する際の価値観の相違と利用者本位の統合を学ぶ。 | 14 心理相談の心（純粋性・無条件の尊重・共感）に倣い介護の心を養う。 |
| 7 リハビリテーションと介護の相補的關係・価値の共有を学ぶ。 | 15 定期試験、問題についての質疑応答 |
| 8 ソーシャルワークと介護福祉との役割分担、 | |

〔テキスト〕未定（授業開始後にきめる）

〔参考文献〕岡村重夫『社会福祉原論』全国社会福祉協議会、秋山智久「福祉の思想と人間観」ミネルヴァ書房

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験（40%）、レポート（40%）、平常点（20%）

63004

①社会福祉援助技術総論

S

笠原幸子

〔授業題目〕社会福祉援助技術総論

〔授業の目的・ねらい〕介護福祉実践に必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な基礎的コミュニケーション能力を養うことを目的とする。

〔授業全体の内容の概要〕対人援助専門職として求められる人間関係の形成の意義やコミュニケーションの基礎を理解し、その能力を養う。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕利用者に対して、またチームケアにおいて円滑なコミュニケーションをとれるように、基礎的コミュニケーション理論を理解する。

〔授業計画〕

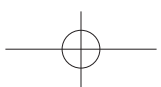
- | | |
|---|--------------------------------------|
| 1 介護場面における利用者、家族とのコミュニケーションの目的について理解する。 | 9 事例をあげて、非言語的コミュニケーションについて理解する。 |
| 2 対人援助専門職として、より良い人間関係の形成の意義について理解する。 | 10 対人援助専門職として、受容・共感・傾聴の重要性について理解する。 |
| 3 人間の多面的理解（自己覚知や他者理解）について理解する。 | 11 視覚障害者や聴覚障害者とのコミュニケーション方法について理解する。 |
| 4 ラポールについて理解するとともに、なぜ必要なのか考察する。 | 12 バイスティックの7つの原則について理解する。 |
| 5 対人援助専門職として、コミュニケーションの概要（基礎）を理解する。 | 13 事例（施設）をあげて、バイスティックの7原則の活用を理解する。 |
| 6 言語的コミュニケーションについて理解する。 | 14 事例（在宅）をあげて、バイスティックの7原則の活用を理解する。 |
| 7 事例をあげて、言語的コミュニケーションについて理解する。 | 15 総括 定期試験 |
| 8 非言語的コミュニケーションについて理解する。 | |

〔テキスト〕野村武夫編著『シリーズ基礎からの社会福祉「社会福祉援助技術」』（ミネルヴァ書房）

〔参考文献〕講義中適宜指示する

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験（60%）、小テスト（10%）、レポート（10%）、平常点（20%）



63005

②高齢者に対する支援と専門職

W

笠原幸子

〔授業題目〕 高齢者に対する支援と専門職

〔授業の目的・ねらい〕 介護の歴史や介護問題の背景など介護福祉士を取り巻く状況と介護福祉士の役割と機能を支えるしくみを学習する。

〔授業全体の内容の概要〕 「尊厳の保持」「自立支援」概念理解の導入として、まず介護の歴史、介護福祉士を取り巻く状況等について学習する。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 介護の歴史や介護問題の背景など介護福祉士を取り巻く状況と介護福祉士の役割と機能を支えるしくみの理解を達成課題とする。

〔授業計画〕

- | | |
|--|--|
| 1 介護福祉という用語の歴史的展開について学習するとともに、その社会的意義について理解させる。 | 8 福祉専門職の活躍する場について実践の視点から理解させる。 |
| 2 わが国の人口動態、高齢者と世帯の動向、高齢化率、少子高齢社会の実態等について理解させる。 | 9 福祉専門職の活躍する場について理念の視点から学習し、前回の実践とつなげて理解させる。 |
| 3 世帯構造、世帯類型などの歴史的変遷を学習し、家族機能の変化について理解させる。 | 10 介護福祉士の役割について社会福祉士と比較しながら考察させ、専門職性について理解させる。 |
| 4 高齢者の人口動態、死亡率、死因等の客観的なデータを参考に、介護ニーズの歴史的変遷について理解させる。 | 11 介護福祉士の役割について看護師と比較しながら考察させ、専門職性について理解させる。 |
| 5 事例を参考にしつつ、高齢者虐待など、高齢者を巡る社会問題について理解させる。 | 12 求められる福祉専門職像について考察させ、資格取得時の到達目標について理解させる。 |
| 6 介護の社会化の社会的要請について理解するとともに、資格制度成立について理解させる。 | 13 施設の事例を参考にしつつ、求められる福祉専門職像について理解させる。 |
| 7 社会福祉士及び介護福祉士法の成立とその意義および内容について理解させる。 | 14 在宅の事例を参考にしつつ、求められる福祉専門職像について理解させる。 |
| | 15 総括 定期試験 |

〔テキスト〕 笠原幸子著『シリーズ基礎からの社会福祉③老人福祉論』（ミネルヴァ書房）

〔参考文献〕 講義の際、適宜紹介する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験（60%）、小テスト（10%）、レポート（10%）、平常点（20%）

63007

②介護福祉論

S

能田茂代

〔授業題目〕 介護を必要とする対象理解

〔概要〕 介護を必要とする人を理解するために、生活背景や時代背景について、また、生活環境、習慣に関心を持ち、対象者の個別性、多様性について学ぶ。

〔到達目標〕 介護を必要とする人の身体的、心理的、社会的要因、また生活歴から“その人らしさ”を把握できる

〔授業計画〕

- | | |
|---|---------------------------------------|
| 1 回目 本講の目的についてオリエンテーション | 8 回目 介護実践における連携
その1（多職種との連携） |
| 2 回目 介護が必要になる要因を理解する。
その1—身体的側面からの理解 | 9 回目 介護実践における連携
その2（地域との連携） |
| 3 回目 介護が必要になる要因を理解する。
その2—心理的側面からの理解 | 10 回目 高齢者の暮らしについて理解する。 |
| 4 回目 介護が必要になる要因を理解する。
その3—社会的側面からの理解 | 11 回目 障害者の暮らしについて理解する。 |
| 5 回目 高齢者の時代背景、生活背景を理解する。
大正～昭和～期間を分担し、A 社会的な事件、
B 流行、C 福祉制度法の変遷。テーマ毎に分
かれグループワーク | 12 回目 介護サービスの概要 |
| 6 回目 介護活動の場の理解その1（施設） | 13 回目 介護を必要とする対象者の生活環境（バ
リアフリー）の理解 |
| 7 回目 介護活動の場の理解その2（居宅） | 14 回目 生活を支える介護サービスの現状と課題
を考察する。 |
| | 15 回目 総括 定期試験 |

〔テキスト〕 『介護の基本』メジカルフレンド社（最新介護学全書）

〔参考文献〕 『ナースが視る人体』薄井坦子 講談社、『介護問題の社会学』岩春日キスヨ 波書店、『98歳の妊娠—宅老所よりあい物語り—』、下村恵美子 谷川俊太郎（詩）雲母書房

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 80%、課題レポート・発表 20%

63008

②介護福祉各論 I

W 濱田佐知子

〔概要〕 質の高い介護を提供するために必要な、「自立支援」「尊厳の保持」及び「介護従事者の倫理」の理解と実践方法を習得する。

〔到達目標〕 介護福祉の実践における「自立支援」と「尊厳の保持」について理解することができる。

〔授業計画〕

- | | |
|--|---------------------------------|
| 1 オリエンテーション | 8 自立支援③（個別介護の考え方とその実践方法） |
| 2 尊厳を支える介護①（介護とは何か） | 9 自立支援④（ICIDH から ICF への理解） |
| 3 尊厳を支える介護②（人間らしくからその人らしく生きるということ） | 10 自立支援⑤（バリアフリー、リハビリテーション） |
| 4 尊厳を支える介護③（ノーマライゼーション、インテグレーション、インクルージョンとは） | 11 自立支援⑥（活動と参加に向けた実践方法） |
| 5 尊厳を支える介護④（利用者主体、ストレングス視点とは） | 12 介護福祉士の職業倫理①（職業人、介護福祉士としての倫理） |
| 6 自立支援①（自立支援と自立支援の考え方） | 13 介護福祉士の職業倫理②（虐待防止、身体拘束廃止に向けて） |
| 7 自立支援②（リカバリーとエンパワメント） | 14 介護福祉士の職業倫理③（プライバシー保護） |
| | 15 定期試験・まとめ |

〔テキスト〕 開講時に指示する

〔参考文献〕 講義の際、適宜紹介する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験（70%）、レポート（20%）、平常点（10%）

63021

②コミュニケーション演習 I

S 笠原幸子

〔授業題目〕 コミュニケーション演習 I

〔授業の目的・ねらい〕 介護におけるコミュニケーションの基本、利用者とその家族に対するコミュニケーション技術、多職種との協働におけるコミュニケーション技術を学ぶ。

〔授業全体の内容の概要〕 具体的なコミュニケーション技術を学ぶために、体験学習を中心に授業展開する。受講生全員の参加型学習を実施する。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 介護場面における利用者とその家族とのコミュニケーション及び介護におけるチームのコミュニケーションについてを習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|---|--|
| 1 自己紹介をすることによって、介護場面における利用者やその家族とのコミュニケーションの重要性を理解する。 | 8 コミュニケーションの実習（入浴介助場面における利用者とのコミュニケーション）と振り返り |
| 2 自己紹介をすることによって、多職種との協働におけるコミュニケーションの重要性を理解する。 | 9 コミュニケーションの実習（排泄介助場面における利用者とのコミュニケーション）と振り返り |
| 3 コミュニケーションの意義・目的・役割についてグループディスカッションして、発表する。 | 10 コミュニケーションの実習（その他の生活場面における家族とのコミュニケーション）と振り返り |
| 4 コミュニケーションの実習（一方通行と双方通行のコミュニケーション）と小講義（歪曲の弧について） | 11 コミュニケーションの実習（チームとのコミュニケーション）と小講義（チーム作りと要素と方法） |
| 5 コミュニケーションの実習（私のきき方）と小講義（話す・聴く・観るについて） | 12 コミュニケーションの実習（グループを観る）と小講義（協力ゲームを振り返る） |
| 6 コミュニケーションの実習（協力ゲーム）と小講義（実習協力ゲームを振り返って） | 13 チームにおけるコミュニケーションの意義と目的（協力ゲームを振り返る） |
| 7 コミュニケーションの実習（食事介助場面における利用者とのコミュニケーション）と振り返り | 14 チームにおけるコミュニケーションの意義と目的（記録の意味を考える） |
| | 15 総括 定期試験 |

〔テキスト〕 適宜資料を配布します。

〔参考文献〕

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験（50%）、レポート等（30%）、平常点（20%）

63022

②1コミュニケーション演習Ⅱ

W 笠原幸子

〔授業題目〕 コミュニケーション演習Ⅱ

〔授業の目的・ねらい〕 視覚障害や聴覚障害等をもった利用者とその家族に対するコミュニケーション技術を学ぶとともに、記録の意味を理解する。

〔授業全体の内容の概要〕 具体的なコミュニケーション技術を学ぶために、体験学習を中心に授業展開する。受講生全員の参加型学習を実施する。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 介護場面における利用者とその家族、及び介護に関わるチーム内でのコミュニケーション基礎能力を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------------|
| 1 高齢者施設における記録の実際（書き方の基本） | 話の特徴 |
| 2 事例に基づき実際に記録を書いてみる（グループで話し合い・発表） | 9 聴覚障害者とのコミュニケーション・手話（手話で自己紹介） |
| 3 記録に求められる内容を吟味する（グループで話し合い・発表） | 10 聴覚障害者とのコミュニケーション・手話（手話で自己紹介） |
| 4 視覚障害者とのコミュニケーション・点字（点字の特徴） | 11 手話を学んでの振り返り（発表） |
| 5 視覚障害者とのコミュニケーション・点字（点字の基本的読み方） | 12 介護実習でのプロセスレコードの振り返り（記録の吟味） |
| 6 視覚障害者とのコミュニケーション・点字（点字の基本的表記） | 13 介護実習でのプロセスレコードの振り返り（内容の吟味） |
| 7 点字を学んでの振り返り（発表） | 14 介護実習でのプロセスレコードの振り返り（今後の課題） |
| 8 聴覚障害者とのコミュニケーション・手話（手話の特徴） | 15 総括 定期試験 |

〔テキスト〕 講義の際、適宜資料を配布します

〔参考文献〕

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 50 %、レポート等 30 %、平常点 20 %

63023

②日常生活援助技術 I

S 濱田佐知子 武田盛夫

〔授業題目〕 自立に向けた基礎介護技術の習得

〔科目概要〕 生活をする上でその場に応じた「身支度」を整えること、美味しく「食事」ができること、ひとが生きていくうえで欠かせないプライバシーが守られた「排泄」行為などの知識・技術を学習する。尊厳保持の観点から、「身支度」「食事」「排泄」において、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術・知識を習得する。

〔到達目標〕 身支度、食事、排泄に関する意義と目的を理解したうえで、生活支援の知識・技術を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 1 回目 オリエンテーション 生活支援技術を学ぶ意義と目的 | 覚が低下している人の場合) |
| 2 回目 自立に向けた身支度の介護の意義と目的 | 17 回目 食事の介助の技法と留意点④ (誤嚥・窒息の防止と緊急時の対応) |
| 3 回目 ICF に基づくアセスメント | 18 回目 食事の介助の技法と留意点⑤ (脱水予防と水分補給の方法) |
| 4 回目 生活習慣からその人らしい装いと楽しみ・活動参加を支える介護 | 19 回目 他職種との協働とそれぞれの役割 |
| 5 回目 身支度の介助の技法と留意点①衣服の着脱の介護 | 20 回目 自立に向けた排泄の意義と目的 |
| 6 回目 身支度の介助の技法と留意点②整容の介護 | 21 回目 ICF に基づくアセスメント |
| 7 回目 身支度の介助の技法と留意点③口腔の清潔の介護 | 22 回目 快適かつ尊厳を保持した安全・的確な排泄支援 |
| 8 回目 身支度の介助の技法と留意点④利用者の状態に応じた方法 | 23 回目 排泄の介助の技法と留意点① (トイレ誘導と介助) |
| 9 回目 他職種との協働とそれぞれの役割 | 24 回目 排泄の介助の技法と留意点② (ポータブルトイレ) |
| 10 回目 自立にむけた食事の意義と目的 | 25 回目 排泄の介助の技法と留意点③ (尿器・便器) |
| 11 回目 ICF に基づくアセスメント | 26 回目 排泄の介助の技法と留意点④ (おむつ) |
| 12 回目 美味しく、安全に食べるための支援 | 27 回目 排泄の介助の技法と留意点⑤ (利用者の状態に応じた介助 1) |
| 13 回目 咀嚼・嚥下のメカニズム | 28 回目 排泄の介助の技法と留意点⑥ (利用者の状態に応じた介助 2) |
| 14 回目 食事の介助の技法と留意点① (感覚機能が低下している人の場合) | 29 回目 他職種との協働とそれぞれの役割 |
| 15 回目 食事の介助の技法と留意点② (運動機能が低下している人の場合) | 30 回目 定期試験・まとめ |
| 16 回目 食事の介助の技法と留意点③ (認知・知 | |

〔テキスト〕 開講時提示する

〔参考文献〕 適宜紹介する

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験・発表 (70%)、レポート・平常点 (30%)

63024

②日常生活援助技術Ⅱ

W 能田茂代 武田盛夫

【概要】 生活行為の移動手段、入浴と清潔維持の介助方法について、基礎的な技術と応用技術を学ぶ。また、実践における、安全、安楽、自立支援への視点を習得する。

【到達目標】 移動、睡眠、入浴・清潔保持の意義、目的を理解し、対象に合わせた介護技術の実践ができる。

【授業計画】

- | | |
|---|---|
| 1 オリエンテーション及びガイダンス（学習目的、方法）。 | （一般浴②） |
| 2 「移動」の意義、目的について理解させる。 | 24 安全・適確な入浴・清潔保持の介助の技法Ⅱ（シャワー浴①） |
| 3 移乗、移動に関する利用者のアセスメント。 | 25 安全・適確な入浴・清潔保持の介助の技法Ⅱ（シャワー浴②） |
| 4 高齢者体験後グループワークの実施。身体の不自由さの根拠と人体の動きと気持ちへの影響を知るⅠ | 26 安全・適確な入浴・清潔保持の介助の技法Ⅲ（機械浴①） |
| 5 高齢者体験後グループワークの実施。身体の不自由さの根拠と人体の動きと気持ちへの影響を知るⅡ | 27 安全・適確な入浴・清潔保持の介助の技法Ⅲ（機械浴②） |
| 6 高齢者体験後グループワークの実施。身体の不自由さの根拠と人体の動きと気持ちへの影響を知るⅢ | 28 安全・適確な入浴・清潔保持の介助の技法Ⅳ（全身清拭） |
| 7 安全で適確な移動・移乗介助方法を学ぶⅠ（歩行の介助の技法①） | 29 安全・適確な入浴・清潔保持の介助の技法Ⅴ（陰部洗浄） |
| 8 安全で適確な移動・移乗介助方法を学ぶⅠ（歩行の介助の技法②） | 30 安全・適確な入浴・清潔保持の介助の技法Ⅵ（足浴・手浴） |
| 9 安全で適確な移動・移乗介助方法を学ぶⅡ（車いすの介助①） | 31 安全・適確な入浴・清潔保持の介助の技法Ⅶ（洗髪） |
| 10 安全で適確な移動・移乗介助方法を学ぶⅡ（車いすの介助②） | 32 利用者の状態・状況に応じた入浴介助の留意点Ⅰ（感覚機能が低下している人の介助の留意点） |
| 11 安全で適確な移動・移乗介助方法を学ぶⅢ（ストレッチャー・リフトの介助） | 33 利用者の状態・状況に応じた入浴介助の留意点Ⅱ（運動機能が低下している人の介助の留意点） |
| 12 安全で適確な移動・移乗介助方法を学ぶⅢ（安楽な体位の保持） | 34 利用者の状態・状況に応じた入浴介助の留意点Ⅲ（認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点） |
| 13 安全で適確な移動・移乗介助方法を学ぶⅣ（体位変換） | 35 他職種との協働とそれぞれの役割 |
| 14 安全で気兼ねなく動けることを支える介護の工夫。 | 36 睡眠の意義・目的 |
| 15 利用者の状態・状況に応じた移動介助の留意点Ⅰ（感覚機能が低下している人の介助の留意点） | 37 睡眠に関する利用者のアセスメント |
| 16 利用者の状態・状況に応じた移動介助の留意点Ⅱ（運動機能が低下している人の介助の留意点） | 38 安眠のための介護の工夫 |
| 17 利用者の状態・状況に応じた移動介助の留意点Ⅲ（認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点） | 39 安眠を促す介助の技法 |
| 18 他職種との協働とそれぞれの役割について | 40 利用者の状態・状況に応じた安眠介助の留意点Ⅰ（感覚機能が低下している人の介助の留意点） |
| 19 入浴の意義と目的 | 41 利用者の状態・状況に応じた安眠介助の留意点Ⅱ（運動機能が低下している人の介助の留意点） |
| 20 入浴における利用者のアセスメント | 42 利用者の状態・状況に応じた安眠介助の留意点Ⅲ（認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点） |
| 21 爽快感・安楽を支える入浴介助の工夫 | 43 利用者の状態・状況に応じた安眠介助の留意点Ⅳ（不眠時の対応） |
| 22 安全・適確な入浴・清潔保持の介助の技法Ⅰ（一般浴①） | 44 他職種との協働とそれぞれの役割 |
| 23 安全・適確な入浴・清潔保持の介助の技法Ⅰ | 45 総括 定期試験 |

【テキスト】 『介護の基本』メジカルフレンド社（最新介護学全書）

【参考文献】

【授業形態】 演習

【成績評価の方法】 定期試験 70 %、レポート等提出物、授業参加度 30 %

63027

②衣生活援助

W 田中暎子

〔授業題目〕高齢者・障害者への衣生活支援

〔授業の目的・ねらい〕家庭生活に必要な被服に関する知識・技能を習得し、高齢者や障害者の自立に向けた衣生活（身じたく）を支援・介護するための能力を養う。

〔授業全体の内容の概要〕家庭生活に必要な被服に関する知識・技能および高齢者や障害者の衣生活における支援方法を実験実習を通して理解する。

〔到達目標〕家庭生活に必要な被服に関する知識・技能の習得、および高齢者や障害者の衣生活に対する支援能力の獲得。

〔授業計画〕

- | | |
|--|--|
| 1 家事の意義と目的 被服の基礎知識（被服の着用目的と機能、繊維の分類と特徴）の理解 | って着やすくするためのアイデア（ICFの視点に基づくアセスメント） |
| 2 被服材料の性能に関する実験（織物の吸水性、収縮性） | 9 介助の技法④高齢者や障害者の生活支援のための縫製実習（基礎縫とボタン付） |
| 3 着心地、保健衛生的性能およびおむつの性質についての実験 | 10 簡単なユニバーサルデザイン衣服の製作実習（はんでんの製作） |
| 4 被服管理実習（界面活性剤の作用と洗浄作用の理解） | 11 簡単なユニバーサルデザイン衣服の製作実習（はんでんの製作） |
| 5 被服管理実習（洗濯条件および仕上げ、被服の保管方法の理解） | 12 簡単なユニバーサルデザイン衣服の製作実習（はんでんの製作） |
| 6 介助の技法①高齢者や障害者の自立支援（身じたく）・活動参加を支えるための被服の知識（バリアフリーとユニバーサルデザイン） | 13 簡単なユニバーサルデザイン衣服の製作実習（はんでんの製作） |
| 7 介助の技法②高齢者や障害者に適した被服の条件と市販衣料における工夫点 | 14 簡単なユニバーサルデザイン衣服の製作実習（はんでんの製作） |
| 8 介助の技法③手持ち被服をADLの状態によ | 15 総括 定期試験 |

〔テキスト〕プリント配布

〔参考文献〕大谷陽子編著『家政学実習』（建帛社）、福祉士養成講座編集委員会編『介護福祉士養成講座家政学概論』（中央法規）

〔授業形態〕実習

〔単位認定の方法及び基準〕定期試験（30％）、作品等提出物（30％）、レポート（20％）、平常点（20％）

63030

②介護過程総論

S 能田茂代

〔概要〕全ての介護が、対象者にとって最善の「介護過程」で成立していることを理解し、そのために必要な思考過程の展開方法について学ぶ。

〔到達目標〕介護過程を展開するために必要な情報収集の視点を学び、アセスメント、介護計画の立案、実施、評価のための基本知識を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|---|------------------------------------|
| 1 開講に当たって、介護過程の意義と目的について | 8 介護過程の展開④情報の分析（アセスメント—事実を捉える） |
| 2 「介護とは何か」について、介護の基本での復習と共に、各自の介護観を振り返り確認する。 | 9 介護過程の展開⑤課題の明確化（優先度の決定） |
| 3 介護の目的と介護過程について | 10 介護過程の展開⑥目標の設定（介護の方向性） |
| 4 介護過程の構成について | 11 介護過程の展開⑦実施計画の立案 |
| 5 介護過程の展開①情報収集その1 必要な「情報」とは何か、対象理解の視点及びICFの理解 | 12 介護過程の展開⑧実施記録の書き方 |
| 6 介護過程の展開②その2 情報収集の方法（事実をとらえる） | 13 介護過程の展開⑨評価の視点 |
| 7 介護過程の展開③全体像の把握 | 14 介護過程の展開⑩修正と再アセスメント、介護の連続性を理解する。 |
| | 15 総括 定期試験 |

〔テキスト〕『介護の基本』メジカルフレンド社（最新介護学全書）

〔参考文献〕講義時提示

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験80％、レポート20％

63041

②介護過程各論 I (高齢者 I : 施設) W 武田盛夫

〔目的〕施設で生活する高齢者に対し介護過程を展開し、介護計画を立案して適切な介護サービスの提供ができるために必要な知識・技術を学ぶ。

〔全体の概要〕高齢者の生活の質の向上に向けて、生活上の課題を把握し、それを解決するために必要な介護のあり方について学習する。

〔終了時の達成課題〕高齢者が生活する環境を考慮した上で、介護過程を展開し、最善の支援の提供ができるための知識や技術を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------------------|---|
| 1 回目 オリエンテーション 介護過程の意義・目的 | ぶ |
| 2 回目 高齢者の生きてきた時代、生活背景について学ぶ | 9 回目 本人を中心とした生活を継続するための介護計画のあり方について学ぶ I |
| 3 回目 高齢社会の現状、施設で生活する高齢者の日常について学ぶ | 10 回目 本人を中心とした生活を継続するための介護計画のあり方について学ぶ II |
| 4 回目 施設介護の目的と内容について学ぶ | 11 回目 サービス提供計画について学ぶ I |
| 5 回目 アセスメントツールの記録方法について学ぶ | 12 回目 サービス提供計画について学ぶ II |
| 6 回目 事例を基に情報を把握する | 13 回目 介護過程の実践的展開をするために必要な知識・技術について学ぶ |
| 7 回目 事例を基に把握した情報を共有する | 14 回目 介護実習で行う介護過程とチームアプローチの実際について学ぶ |
| 8 回目 事実の客観的な把握と記録方法について学ぶ | 15 回目 まとめ 定期試験 |

〔テキスト〕開講時に提示

〔参考文献〕適宜紹介

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕定期試験 80 %、平常点 20 %

63045

②介護実習指導 I S 笠原幸子 能田茂代 濱田佐知子 大西敏浩 武田盛夫

〔授業題目〕介護福祉実践に必要な基礎能力を養う

〔科目概要〕介護福祉実習に臨むにあたり、必要な知識・技術など習得してきたことが実践に関連付けることができ、且つ、実習の場で役立てることができるようになるための力を身につける。介護実習に必要な知識及び技術、介護過程の展開の能力などについて、個別の学習到達状況に応じて総合的に学習する。

〔到達目標〕実習の意義、目的から介護施設などの機能と介護福祉士の役割の理解と実践方法、利用者の生活理解などを講義及び演習形式で学び、介護実習に繋げることができる。

〔授業計画〕

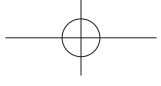
- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1 回目 実習の意義と目的 | 9 回目 実習日誌の書き方 |
| 2 回目 さまざまな介護実習施設とその特性 | 10 回目 プロセスレコードの書き方 |
| 3 回目 介護施設の理解 | 11 回目 カンファレンスの進め方と記録 |
| 4 回目 居宅介護の理解 | 12 回目 介護技術チェック表の書き方 |
| 5 回目 対人援助職に必要な接遇・マナー | 13 回目 先輩による実習報告及び質疑応答 |
| 6 回目 コミュニケーション方法 | 14 回目 施設等オリエンテーション報告 |
| 7 回目 実習計画・個人表の書き方 | 15 回目 実習開始前の学内オリエンテーション |
| 8 回目 施設の沿革を知る | |

〔テキスト〕最新介護福祉全書8巻『介護総合演習』監修坪山孝(メジカルフレンド社) 本学『介護実習の手引き』

〔参考文献〕適宜紹介する

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕レポート 60 %、平常点・報告会発表等 40 %



63046

②介護実習指導Ⅱ

W 笠原幸子 能田茂代 濱田佐知子 大西敏浩 武田盛夫

〔目的〕学内で学んだ知識・技術を、実習を通して介護の現場で実践するための具体的な方法について学ぶ。

〔全体の概要〕レベルⅠの前半実習の事前・事後指導、また、レベルⅠの後半実習の事前指導を通して、各自が自己の実習課題を明確にできるよう指導を展開する。

〔終了時の達成課題〕自身の目標や学習課題を明確にし、介護施設の概要の理解と介護従事者として必要なコミュニケーションや観察力の習得を目指す。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------------|--|
| 1 回目 実習事前指導Ⅰ（障害の種類と自立支援について） | 10 回目 実習報告会 |
| 2 回目 実習事前指導Ⅱ（施設と利用者の生活理解） | 11 回目 実習事後指導（評価表に基づく個別指導） |
| 3 回目 個人票・実習計画書の作成 | 12 回目 実習事前指導Ⅰ（居宅介護サービスについて） |
| 4 回目 個人票・実習計画書の作成 | 13 回目 実習事前指導Ⅱ（介護過程の展開：情報収集・アセスメント） |
| 5 回目 実習記録の書き方 | 14 回目 実習事前指導Ⅲ（介護過程の展開：個別介護計画の立案・実施・評価） |
| 6 回目 実習直前オリエンテーション | 15 回目 個人票・実習計画書の作成 |
| 7 回目 中間帰校日指導（全体及びグループ） | |
| 8 回目 実習報告会準備（レベルⅠ前半） | |
| 9 回目 実習報告会 | |

〔テキスト〕能田茂代編『介護総合演習』メヂカルフレンド社

〔参考文献〕適宜紹介

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕レポート 60 %、平常点 40 %

63049

②介護実習

W・S 笠原幸子 能田茂代 濱田佐知子 大西敏浩 武田盛夫

〔授業科目〕実践を通して介護観を形成する

〔科目概要〕専門職として求められる資質や介護実践能力を習得するために、施設実習と在宅実習を行う。学内で学んだ知識・技術に基づいて利用者・家族等と関わり、専門職として求められる資質や介護実践能力を養う。レベルⅠの実習では、コミュニケーションを通じて利用者理解を中心とするとともに、施設理解や多職種間の連携、介護技術の確認などを重点に行う。レベルⅡの実習では、個別の利用者に対して、情報の収集と分析、課題の明確化、介護計画の立案・実施、評価と計画の修正といった一連の介護過程の実践を重点に行う。

〔到達目標〕介護実習を通し、介護福祉士に求められる専門的知識や技術、倫理観を習得し実践できることを到達目標とする。

〔授業計画〕

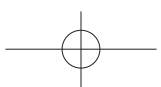
- | | |
|---|--|
| 1 レベルⅠの前半実習（施設実習：120時間）
平成 21 年 11 月 9 日（月）～11 月 28 日（土） | 原則として実習時間は、1 日 8 時間、1 週 40 時間とする。ただし、レベルⅠの後半実習（施設実習）およびレベルⅡの実習において「夜間実習」等の経験を実習受入れ施設に求め、承諾された場合などについては、1 日の実習時間に変動がでることもある。介護実習の詳細については「実習の手引き」等でより説明する。 |
| 2 レベルⅠの後半実習（施設実習：136時間）
平成 22 年 2 月 15 日（月）～3 月 9 日（火） | |
| 3 レベルⅠの後半実習（在宅実習：40時間）
平成 22 年 3 月 10 日（水）～3 月 16 日（火） | |
| 4 レベルⅡの実習（施設実習：160時間）
平成 22 年 6 月 7 日（月）～7 月 3 日（土） | |

〔テキスト〕講義の際、適宜紹介する

〔参考文献〕

〔授業形態〕実習

〔成績評価の方法〕実習評価は、各実習ごとに評価を行う。ただし、実習規定日数の 4/5 以上出席しない場合は不合格となる実習先の評価 30 %、実習ノート 20 %、実習報告書 50 %



63050

①医学概論（老年）

S

倉田義之

〔授業題目〕 老化と高齢者の疾患

〔概要〕 身体の発達と退化、人体の自然経過を示すとともに高齢者にみられる症状や疾患について理解する。

〔到達目標〕 高齢者の身体変化を理解し、高齢者の各種訴えにも医学的知識をもって応えられるようになることを達成課題とする。

〔授業計画〕

- | | |
|--|----------------------------------|
| 1 人間の成長と発達過程（乳幼児期・学童期・思春期）に関する基礎的理解をする | 9 高齢者にみられる老眼・白内障を理解する |
| 2 老化に伴うからだや外見の変化を理解する | 10 高齢者にみられる尿失禁・頻尿、脱水について理解する |
| 3 老化に伴う各種臓器の機能の変化を理解する | 11 高齢者にみられるめまい・ふらつき・難聴・歯のケアを理解する |
| 4 老化に伴う精神や神経の機能・変化を理解する | 12 高齢者にみられる不眠症・うつ病・認知症について理解する |
| 5 老年病の種類、症状の特徴と治療の特殊性を理解する | 13 高齢者にみられる手足のしびれ・神経痛・手のふるえを理解する |
| 6 高齢者にみられる生活習慣病・メタボリック症候群を理解する | 14 高齢者の骨そしょう症・腰痛・歩行障害・転倒・骨折を理解する |
| 7 高齢者に多くみられるガンについて理解する | 15 総括 定期試験 |
| 8 高齢者にみられる嚥下障害・誤嚥、食欲不振について理解する | |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 予防とつきあい方シリーズ「老年病・認知症～長寿の秘訣～」メディカルレビュー社

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 50 %、小テスト 50 %

63061

①高齢者の日常生活

W

濱田佐知子

〔授業題目〕 ころとからだのしくみと生活

〔授業の目的・ねらい〕 発達の観点から介護を理解し、老化に伴うころとからだの変化と日常生活における心身機能の影響に関する基礎的知識を習得する。〔授業全体の内容の概要〕 老年期の発達と成熟について理解し、老化に伴う日常生活への影響、高齢者の心理、高齢者の疾病と生活上の留意点、高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点、保健・医療職との連携について理解する。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 老化に伴うころとからだの変化と日常生活及び、高齢者と健康について理解でき、他職種との連携がはかれるようになる。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------------------|----------------------------------|
| 1 老化が心身に及ぼす影響（防衛反応、回復力、順応力の変化） | 8 高齢者の疾病と生活上の留意点①（生活習慣病） |
| 2 老化による心身の変化と日常生活への影響①（身体機能、精神的機能の変化） | 9 高齢者の疾病と生活上の留意点②（介護予防） |
| 3 老化による心身の変化と日常生活への影響②（知的・認知機能の変化） | 10 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点①（症状と特徴） |
| 4 老化や障害を受容する高齢者の気持ち | 11 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点②（不調の気付き） |
| 5 社会や家庭における役割を離れることへの喪失感 | 12 連携①（保健・医療） |
| 6 親しいものとの別れの受容 | 13 連携②（福祉） |
| 7 経済的、その他の将来への不安 | 14 連携③（地域におけるセーフティネット） |
| | 15 定期試験・まとめ |

〔テキスト〕 開講時に提示する

〔参考文献〕 適宜紹介する

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 点、レポート・平常点 30 点

63066

②1 身体の構造と機能の理解

S 能田茂代

〔概要〕 細胞からなる、人体の解剖学的理解と、生命維持のための基本的な生理学についての知識を習得する。

〔到達目標〕 人体の解剖、生理について学び、身体各部の名称、機能を理解できる。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------|
| 1 開講にあたって身体の構造・機能を学習する目的について | 8 循環器系①（心臓、血液） |
| 2 細胞の構造とはたらき | 9 循環器系②（腎臓、体液調節）、と排泄について |
| 3 神経系①（中枢、末梢、自律神経） | 10 呼吸器系（肺、気管） |
| 4 神経系②脳の構造と認知機能（言語、記憶） | 11 免疫機能とアレルギー |
| 5 感覚器系（視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚） | 12 内分泌系（ホルモン）と代謝（肝臓、膵臓） |
| 6 骨格系と運動機能について | 13 体温調節（皮膚、発汗） |
| 7 消化器系（口腔、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸）と吸収について | 14 情動の生理 |
| | 15 総括 定期試験 |

〔テキスト〕 『こころとからだのしくみ』 中央法規出版

〔参考文献〕 『ナースが見る人体』 薄井坦子（講談社）、『介護に使えるワンポイント医学知識』 白井孝子（中央法規）、『からだの不思議』 だれでもわかる解剖生理学』 坂井建雄（メヂカルフレンド社）

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 %、課題レポート 20 %

63067

こころとからだのしくみ I

W 武田盛夫

〔目的〕 移動や食事に関連したこころとからだのしくみについて理解し、介護を必要とする人々が安心して安全な生活を営むための介護実践における知識を養う。

〔全体の概要〕 移動や食事に関連したこころとからだのしくみについて理解できるようになる。

〔終了時の達成課題〕 移動や食事など、利用者の生活・自立支援に必要な介護実践に関連する基礎的知識、機能低下や障害が及ぼす影響、医療職などとの連携について理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|--|------------------------------|
| 1 回目 オリエンテーション（こころとからだのしくみを理解する必要性・目的について） | 9 回目 運動が及ぼす身体への負担について |
| 2 回目 移動の概要の理解 I | 10 回目 身体をつくる栄養素と必要量について |
| 3 回目 移動の概要の理解 II | 11 回目 食事摂取量を基に栄養と心理面について |
| 4 回目 座位・立位のしくみについて | 12 回目 食欲に影響する因子について |
| 5 回目 歩行のしくみについて | 13 回目 食事摂取のしくみについて |
| 6 回目 筋力・骨のしくみについて | 14 回目 食事摂取に関する機能低下の原因と影響について |
| 7 回目 安全・安楽な移動について | 15 回目 定期試験・まとめ |
| 8 回目 移動に関する機能低下の原因と影響について | |

〔テキスト〕 開講時に提示

〔参考文献〕 講義の際、適宜紹介

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 %、平常点 20 %

63301

社会福祉概論 A・B

S・W 笠原幸子

〔授業題目〕社会福祉概論 A・B（少子高齢社会において福祉サービスの利用は、多くの人々の生活の一場面になった。また、福祉サービス提供の場が施設から地域へと移行する中で、介護福祉士への期待はますます高まっている。このような状況下、社会福祉の意義や目的について理解し、関連する法律や制度及び財政について、その要旨を習得させるとともに、社会福祉の遂行と福祉専門職の必要性について理解させる。）

〔概要〕社会福祉の意義と理念、地域福祉の概要、社会福祉の法体系と運営組織、社会保障及び関連制度の概要、社会福祉援助技術の概要、福祉資格法の成立と目的等を中心に授業を行う。

〔到達目標〕社会福祉の意義や目的について理解し、関連する法律や制度及び財政についてその要旨を習得する。さらに、現代社会における社会福祉の円滑な遂行と福祉専門職の必要性について理解することを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1 社会福祉の意義と理念 | 17 医療保障制度の概要 |
| 2 社会福祉の対象と主体 | 18 介護保険制度の概要 |
| 3 欧米諸外国における社会福祉の歴史 | 19 成年後見制度の概要 |
| 4 日本における社会福祉の歴史 | 20 雇用・就労制度、住宅制度の概要 |
| 5 社会福祉の新しいパラダイム | 21 生涯教育・障害教育制度の概要 |
| 6 地域福祉の概念 | 22 社会福祉援助技術の概念と歴史 |
| 7 地域福祉の内容と推進組織、担い手 | 23 社会福祉援助技術の種類と具体的場面 |
| 8 地域福祉計画とその財源 | 24 社会福祉従事者の概要 |
| 9 社会福祉の法制の体系 | 25 社会福祉従事者の専門職性 |
| 10 社会福祉に関連する法律 | 26 福祉資格法の成立と目的 |
| 11 社会福祉の運営組織 | 27 福祉資格法の内容 |
| 12 福祉サービスの提供と利用 | 28 少子高齢社会の進展と介護問題への対応 |
| 13 社会福祉の財政と費用負担 | 29 日本の社会保障をめぐる近年の動向 |
| 14 社会福祉における公私の役割 | 30 我が国の社会福祉の新しい展開および定期試験 |
| 15 シルバーサービスの概要および定期試験 | |
| 16 所得保障制度の概要 | |

〔テキスト〕講義の際適宜資料を配布

〔参考文献〕講義の際適宜紹介する

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 60 %、小テスト、レポート提出等 20 %、平常点 20 % で総合的に評価する

63302

老人福祉論 A・B

S・W 笠原幸子

〔授業目的・ねらい〕 老人福祉の意義と目的の理解を基礎として、各種老人福祉サービスの現状と社会的意義について学び、老人福祉、老人保健及び介護保険制度の概要とサービス体系、内容及び利用手続き等、具体的な内容を習得させる。

〔授業全体の内容の概要〕 高齢者に関する法制について、その意義や内容を学習し、今、老人福祉の分野で介護がどのように展開されているかまた、どのようなことが期待されているのかを理解させる。さらに、事例を紹介して、高齢者理解を一層深めたい。

〔授業修了時の達成目標〕 老人福祉に関する制度・施策の知識を習得するとともに、生活者としての高齢者の理解を深めることを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 1 少子高齢化の到来と家族構成の変化等 | 15 総括（完成した高齢者サービスマップの評価） |
| 2 高齢者を取り巻く状況の変化 | 16 介護保険制度の目的と理念 |
| 3 老人福祉の課題と対応 | 17 介護保険制度の運営と財源 |
| 4 高齢者の日常生活の考察 | 18 介護保険制度の給付と利用手続き |
| 5 私の高齢者観・50年後の私の生活（発表） | 19 在宅福祉サービスの意義 |
| 6 老人福祉法の目的と理念 | 20 在宅福祉サービスの内容 |
| 7 老人福祉法のサービスの変遷 | 21 施設福祉サービスの意義 |
| 8 老人福祉法のサービス関係推進機関と財政システム | 22 施設福祉サービスの内容 |
| 9 老人福祉法におけるサービス提供に関わる関係職員 | 23 民間シルバーサービスの現状と展望 |
| 10 老人福祉法と保健医療サービスとの連携 | 24 事例研究Ⅰ（在宅の寝たきり老人の場合） |
| 11 老人保健法の目的と理念 | 25 事例研究Ⅱ（在宅の痴呆性老人の場合） |
| 12 保健事業と老人医療等 | 26 事例研究Ⅲ（独居老人の場合） |
| 13 老人保健施設と老人訪問看護制度等 | 27 事例研究Ⅳ（施設での要介護老人の場合） |
| 14 高齢者をめぐるサービスマップづくり | 28 事例研究Ⅴ（施設での虚弱老人の場合） |
| | 29 高齢者の生きがいと健康づくりについて |
| | 30 総括（定期試験） |

〔テキスト〕 笠原幸子著『シリーズ基礎からの社会福祉③老人福祉論』（ミネルヴァ書房）『社会福祉小六法2009年度版』（ミネルヴァ書房）

〔参考文献〕 講義の際、適宜紹介します

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、小テスト・レポート提出等 10 %、出席状況 20 %で総合的に評価する

63304

リハビリテーション論

S

藤平保茂

〔授業題目〕 介護福祉士の専門性を理解する

〔概要〕 リハビリテーションの理念と基本原則を解説した上で、高齢者や障害者における具体的な障害の程度とその影響について、実際の介護福祉士の援助について、具体的なイメージを持てる様に講義する。

〔到達目標〕 生活の場で活かせるリハビリテーションの基本的知識や技術を習得することを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|---|-------------------------------------|
| 1 リハビリテーションの理念（ノーマライゼーション、自己決定、QOL等） | 8 障害児の障害とその影響（発達障害を含めて） |
| 2 リハビリテーションの理念と技術の歴史的変遷 | 9 医学的リハビリテーションの理論と実際 |
| 3 現代社会におけるリハビリテーションの重要性（他の専門職との連携の重要性も含む） | 10 職業的リハビリテーションの理論と実際 |
| 4 介護福祉士に要求されるリハビリテーションの知識と技術 | 11 教育的リハビリテーションの理論と実際 |
| 5 家庭生活の構造（利用者への家事援助、介護援助と作業管理、家庭の情報処理） | 12 社会的リハビリテーションの理論と実際 |
| 6 高齢者の障害の程度とその影響 | 13 介護福祉士に必要なリハビリテーションの展開過程、理論編 |
| 7 障害者の障害の程度とその影響 | 14 介護福祉士に必要なリハビリテーションの展開過程のシミュレーション |
| | 15 リハビリテーションの展開過程に対するグループ討議 |

〔テキスト〕 『福祉士養成講座編集委員会編 リハビリテーション論』（中央法規出版）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験、小テスト、レポート提出等および平常状況で総合的に評価する。

63305

社会福祉援助技術

S

笠原幸子

〔授業題目〕 社会福祉援助技術総論

〔授業の目的・ねらい〕 介護福祉実践に必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な基礎的コミュニケーション能力を養うことを目的とする。

〔授業全体の内容の概要〕 対人援助専門職として求められる人間関係の形成の意義やコミュニケーションの基礎を理解し、その能力を養う。

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 利用者に対して、またチームケアにおいて円滑なコミュニケーションをとれるように、基礎的コミュニケーション理論を理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|---|--------------------------------------|
| 1 介護場面における利用者、家族とのコミュニケーションの目的について理解する。 | 9 事例をあげて、非言語的コミュニケーションについて理解する。 |
| 2 対人援助専門職として、より良い人間関係の形成の意義について理解する。 | 10 対人援助専門職として、受容・共感・傾聴の重要性について理解する。 |
| 3 人間の多面的理解（自己覚知や他者理解）について理解する。 | 11 視覚障害者や聴覚障害者とのコミュニケーション方法について理解する。 |
| 4 ラポールについて理解するとともに、なぜ必要なのか考察する。 | 12 バイスティックの7つの原則について理解する。 |
| 5 対人援助専門職として、コミュニケーションの概要（基礎）を理解する。 | 13 事例（施設）をあげて、バイスティックの7原則の活用を理解する。 |
| 6 言語的コミュニケーションについて理解する。 | 14 事例（在宅）をあげて、バイスティックの7原則の活用を理解する。 |
| 7 事例をあげて、言語的コミュニケーションについて理解する。 | 15 総括 定期試験 |
| 8 非言語的コミュニケーションについて理解する。 | |

〔テキスト〕 野村武夫編著『シリーズ基礎からの社会福祉「社会福祉援助技術」』（ミネルヴァ書房）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験（60%）、小テスト（10%）、レポート（10%）、平常点（20%）

63306

社会福祉援助技術演習

W 笠原幸子

〔授業題目〕コミュニケーション演習 I

〔授業の目的・ねらい〕介護におけるコミュニケーションの基本、利用者とその家族に対するコミュニケーション技術、多職種との協働におけるコミュニケーション技術を学ぶ。

〔授業全体の内容の概要〕具体的なコミュニケーション技術を学ぶために、体験学習を中心に授業展開する。受講生全員の参加型学習を実施する。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕介護場面における利用者とその家族とのコミュニケーション及び介護におけるチームのコミュニケーションについてを習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|---|--|
| 1 自己紹介をすることによって、介護場面における利用者やその家族とのコミュニケーションの重要性を理解する。 | 8 コミュニケーションの実習（入浴介助場面における利用者とのコミュニケーション）と振り返り |
| 2 自己紹介をすることによって、多職種との協働におけるコミュニケーションの重要性を理解する。 | 9 コミュニケーションの実習（排泄介助場面における利用者とのコミュニケーション）と振り返り |
| 3 コミュニケーションの意義・目的・役割についてグループディスカッションして、発表する。 | 10 コミュニケーションの実習（その他の生活場面における家族とのコミュニケーション）と振り返り |
| 4 コミュニケーションの実習（一方通行と双方通行のコミュニケーション）と小講義（歪曲の弧について） | 11 コミュニケーションの実習（チームとのコミュニケーション）と小講義（チーム作りと要素と方法） |
| 5 コミュニケーションの実習（私のきき方）と小講義（話す・聴く・観るについて） | 12 コミュニケーションの実習（グループを観る）と小講義（協力ゲームを振り返る） |
| 6 コミュニケーションの実習（協力ゲーム）と小講義（実習協力ゲームを振り返って） | 13 チームにおけるコミュニケーションの意義と目的（協力ゲームを振り返る） |
| 7 コミュニケーションの実習（食事介助場面における利用者とのコミュニケーション）と振り返り | 14 チームにおけるコミュニケーションの意義と目的（記録の意味を考える） |
| | 15 総括 定期試験 |

〔テキスト〕適宜資料を配布します。

〔参考文献〕

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕定期試験（50％）、レポート等（30％）、平常点（20％）

63310

家政学実習（被服）

W 田中暎子

〔授業題目〕高齢者・障害者への衣生活支援

〔授業の目的・ねらい〕家庭生活に必要な被服に関する知識・技能を習得し、高齢者や障害者の自立に向けた衣生活（身じたく）を支援・介護するための能力を養う。

〔授業全体の内容の概要〕家庭生活に必要な被服に関する知識・技能および高齢者や障害者の衣生活における支援方法を実験実習を通して理解する。

〔到達目標〕家庭生活に必要な被服に関する知識・技能の習得、および高齢者や障害者の衣生活に対する支援能力の獲得。

〔授業計画〕

- | | |
|--|--|
| 1 家事の意義と目的 被服の基礎知識（被服の着用目的と機能、繊維の分類と特徴）の理解 | って着やすくするためのアイデア（ICFの視点に基づくアセスメント） |
| 2 被服材料の性能に関する実験（織物の吸水性、収縮性） | 9 介助の技法④高齢者や障害者の生活支援のための縫製実習（基礎縫とボタン付） |
| 3 着心地、保健衛生的性能およびおむつの性質についての実験 | 10 簡単なユニバーサルデザイン衣服の製作実習（はんでんの製作） |
| 4 被服管理実習（界面活性剤の作用と洗浄作用の理解） | 11 簡単なユニバーサルデザイン衣服の製作実習（はんでんの製作） |
| 5 被服管理実習（洗濯条件および仕上げ、被服の保管方法の理解） | 12 簡単なユニバーサルデザイン衣服の製作実習（はんでんの製作） |
| 6 介助の技法①高齢者や障害者の自立支援（身じたく）・活動参加を支えるための被服の知識（バリアフリーとユニバーサルデザイン） | 13 簡単なユニバーサルデザイン衣服の製作実習（はんでんの製作） |
| 7 介助の技法②高齢者や障害者に適した被服の条件と市販衣料における工夫点 | 14 簡単なユニバーサルデザイン衣服の製作実習（はんでんの製作） |
| 8 介助の技法③手持ち被服をADLの状態によ | 15 総括 定期試験 |

〔テキスト〕プリント配布

〔参考文献〕大谷陽子編著『家政学実習』（建帛社）、福祉士養成講座編集委員会編『介護福祉士養成講座家政学概論』（中央法規）

〔授業形態〕実習

〔単位認定の方法及び基準〕定期試験（30％）、作品等提出物（30％）、レポート（20％）、平常点（20％）

63323

医学一般C

S 倉田義之

〔授業題目〕症状と検査から見た病気の話し

〔概要〕人体の構造と機能、代表的な疾病の概要、公衆衛生の動向、保健医療対策の概要、医事法制等について、介護福祉士として業務する際に必要な医学知識を中心に講義する。

〔到達目標〕介護福祉士が保健医療の分野の専門職と連携し、介護の業務を遂行する上において必要な医学知識を習得することを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1 健康評価法：尿検査 | 9 生活習慣病対策：肥満・糖尿病の予防 |
| 2 健康評価法：糞便検査 | 10 生活習慣病対策：高血圧・動脈硬化の予防 |
| 3 健康評価法：血液検査 | 11 老人保健対策 |
| 4 健康評価法：血液化学検査 | 12 難病対策 |
| 5 健康評価法：画像検査 | 13 医療保障制度の概要と医療施設の現状 |
| 6 健康評価法：生理学的検査法 | 14 精神保健対策 |
| 7 健康評価法：微生物学的検査法 | 15 学童健康管理法と定期試験 |
| 8 感染症対策：消毒・滅菌・予防接種・ワクチン | |

〔テキスト〕

〔参考文献〕川崎市立川崎病院、『知りたいことがすぐわかる病態生理 症候編』、へるす出版

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験50％、小テスト50％

63323

医学一般A

S

倉田義之

〔授業科目〕 老化と高齢者の疾患

〔概要〕 身体の発達と退化、人体の自然経過を示すとともに高齢者にみられる症状や疾患について理解する。

〔到達目標〕 高齢者の身体変化を理解し、高齢者の各種訴えにも医学的知識をもって応えられるようになることを達成課題とする。

〔授業計画〕

- | | |
|--|----------------------------------|
| 1 人間の成長と発達過程（乳幼児期・学童期・思春期）に関する基礎的理解をする | 9 高齢者にみられる老眼・白内障を理解する |
| 2 老化に伴うからだや外見の変化を理解する | 10 高齢者にみられる尿失禁・頻尿、脱水について理解する |
| 3 老化に伴う各種臓器の機能の変化を理解する | 11 高齢者にみられるめまい・ふらつき・難聴・歯のケアを理解する |
| 4 老化に伴う精神や神経の機能・変化を理解する | 12 高齢者にみられる不眠症・うつ病・認知症について理解する |
| 5 老年病の種類、症状の特徴と治療の特殊性を理解する | 13 高齢者にみられる手足のしびれ・神経痛・手のふるえを理解する |
| 6 高齢者にみられる生活習慣病・メタボリック症候群を理解する | 14 高齢者の骨そしょう症・腰痛・歩行障害・転倒・骨折を理解する |
| 7 高齢者に多くみられるガンについて理解する | 15 総括 定期試験 |
| 8 高齢者にみられる嚥下障害・誤嚥、食欲不振について理解する | |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 予防とつきあい方シリーズ「老年病・認知症～長寿の秘訣～」メディカルレビュー社

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 50 %、小テスト 50 %

63324

精神保健

W

橋本篤孝

〔概要〕 精神保健の意義、重要性、動向といった概要を説明し、各ライフステージにおける精神保健との関わり、地域での精神保健の展開、精神障害の基礎的知識、精神保健制度の概要等を講義する。

〔到達目標〕 介護福祉士の業務を遂行する際に必要な精神保健の重要性を十分に理解すること、また、精神保健分野の新たな専門職として登場した神経保健福祉士の役割を理解し、介護福祉士との連携のあり方を習得することを目標にする。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------------------|---|
| 1 精神保健の概要Ⅰ（精神保健の意義） | 10 老年期の精神障害Ⅱ（症状と異常行動、対応の原則等） |
| 2 精神保健の概要Ⅱ（現代社会における精神保健の重要性） | 11 精神疾患の概要Ⅰ（心身症、神経症、そううつ病） |
| 3 精神保健の概要Ⅲ（精神保健の動向） | 12 精神疾患の概要Ⅱ（統合失調症、中毒性精神病等） |
| 4 個人の各ライフステージにおける精神保健Ⅰ（児童、思春期、成人期） | 13 精神保健福祉制度の概要Ⅰ（精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の概要） |
| 5 個人の各ライフステージにおける精神保健Ⅱ（老年期） | 14 精神保健福祉制度の概要Ⅱ（精神保健福祉の理念と精神保健福祉の関係機関） |
| 6 様々な場面での精神保健Ⅰ（地域） | 15 精神保健福祉士の役割と介護福祉士の連携および定期試験 |
| 7 様々な場面での精神保健Ⅱ（職場） | |
| 8 精神障害の概要 | |
| 9 老年期の精神障害Ⅰ（認知症の定義、原因、出現率） | |

〔テキスト〕 「医学書院」刊 系統看護学講座 専門分野 第26巻、精神看護学 [1] 精神保健看護の基本概念

〔参考文献〕 随時、授業において配布する。橋本篤孝著、金芳堂「症状別対応・高齢者介護の緊急事態マニュアル」

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 平常点等 30 %、授業態度 30 %、定期試験 40 %

63325

介護概論 A

S 能田茂代

〔授業題目〕 介護を必要とする対象理解

〔概要〕 介護を必要とする人を理解するために、生活背景や時代背景について、また、生活環境、習慣に関心を持ち、対象者の個別性、多様性について学ぶ

〔到達目標〕 介護を必要とする人の身体的、心理的、社会的要因、また生活歴から“その人らしさ”を把握できる

〔授業計画〕

- | | |
|--|--------------------------------|
| 1 本講の目的についてオリエンテーション | 8 介護実践における連携
その1（多職種との連携） |
| 2 介護が必要になる要因を理解する。
その1—身体的側面からの理解 | 9 介護実践における連携
その2（地域との連携） |
| 3 介護が必要になる要因を理解する。
その2—心理的側面からの理解 | 10 高齢者の暮らしについて理解する |
| 4 介護が必要になる要因を理解する。
その3—社会的側面からの理解 | 11 障害者の暮らしについて理解する |
| 5 高齢者の時代背景、生活背景を理解する。大正～昭和～期間を分担し、A 社会的な事件、B 流行、C 福祉制度法の変遷。テーマ毎に分かれグループワーク | 12 介護サービスの概要 |
| 6 介護活動の場の理解その1（施設） | 13 介護を必要とする対象者の生活環境（バリアフリー）の理解 |
| 7 介護活動の場の理解その2（居宅） | 14 生活を支える介護サービスの現状と課題を考察する |
| | 15 総括 定期試験 |

〔テキスト〕 『介護の基本』メジカルフレンド社（最新介護学全書）

〔参考文献〕 『ナースが視る人体』薄井坦子 講談社、『介護問題の社会学』岩春日キスヨ 波書店、『98歳の妊娠—在宅老所よりあい物語り—』、下村恵美子 谷川俊太郎（詩）雲母書房

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 %、課題レポート・発表 20 %

63325

介護概論 B

W 濱田佐知子

〔概要〕 質の高い介護を提供するために必要な、「自立支援」「尊厳の保持」及び「介護従事者の倫理」の理解と実践方法を習得する。

〔到達目標〕 介護福祉の実践における「自立支援」と「尊厳の保持」について理解することができる。

〔授業計画〕

- | | |
|--|---------------------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 自立支援④（ICIDH から ICF への理解） |
| 2 尊厳を支える介護①（介護とは何か） | 10 自立支援⑤（バリアフリー、リハビリテーション） |
| 3 尊厳を支える介護②（人間らしくからその人らしく生きるということ） | 11 自立支援⑥（活動と参加に向けた実践方法） |
| 4 尊厳を支える介護③（ノーマライゼーション、インテグレーション、インクルージョンとは） | 12 介護福祉士の職業倫理①（職業人、介護福祉士としての倫理） |
| 5 尊厳を支える介護④（利用者主体、ストレングス視点とは） | 13 介護福祉士の職業倫理②（虐待防止、身体拘束廃止に向けて） |
| 6 自立支援①（自立支援と自立支援の考え方） | 14 介護福祉士の職業倫理③（プライバシー保護） |
| 7 自立支援②（リカバリーとエンパワメント） | 15 定期試験・まとめ |
| 8 自立支援③（個別介護の考え方とその実践方法） | |

〔テキスト〕 開講時に提示する

〔参考文献〕 講義の際、適宜紹介する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験（70 %）、レポート（20 %）、平常点（10 %）

63326
介護技術C

W 能田茂代 武田盛夫

【概要】生活行為の移手段、入浴と清潔維持の介助方法について、基礎的技術と応用技術を学ぶ。また、実践における、安全、安楽、自立支援への視点を習得する。

【到達目標】移動、睡眠、入浴・清潔保持の意義、目的を理解し、対象に合わせた介護技術の実践ができる。

【授業計画】

- | | |
|---|---|
| 1 オリエンテーション及びガイダンス（学習目的、方法）。 | （一般浴②） |
| 2 「移動」の意義、目的について理解させる。 | 24 安全・適確な入浴・清潔保持の介助の技法Ⅱ（シャワー浴①） |
| 3 移乗、移動に関する利用者のアセスメント。 | 25 安全・適確な入浴・清潔保持の介助の技法Ⅱ（シャワー浴②） |
| 4 高齢者体験後グループワークの実施。身体の不自由さの根拠と人体の動きと気持ちへの影響を知るⅠ | 26 安全・適確な入浴・清潔保持の介助の技法Ⅲ（機械浴①） |
| 5 高齢者体験後グループワークの実施。身体の不自由さの根拠と人体の動きと気持ちへの影響を知るⅡ | 27 安全・適確な入浴・清潔保持の介助の技法Ⅲ（機械浴②） |
| 6 高齢者体験後グループワークの実施。身体の不自由さの根拠と人体の動きと気持ちへの影響を知るⅢ | 28 安全・適確な入浴・清潔保持の介助の技法Ⅳ（全身清拭） |
| 7 安全で適確な移動・移乗介助方法を学ぶⅠ（歩行の介助の技法①） | 29 安全・適確な入浴・清潔保持の介助の技法Ⅴ（陰部洗浄） |
| 8 安全で適確な移動・移乗介助方法を学ぶⅠ（歩行の介助の技法②） | 30 安全・適確な入浴・清潔保持の介助の技法Ⅵ（足浴・手浴） |
| 9 安全で適確な移動・移乗介助方法を学ぶⅡ（車いすの介助①） | 31 安全・適確な入浴・清潔保持の介助の技法Ⅶ（洗髪） |
| 10 安全で適確な移動・移乗介助方法を学ぶⅡ（車いすの介助②） | 32 利用者の状態・状況に応じた入浴介助の留意点Ⅰ（感覚機能が低下している人の介助の留意点） |
| 11 安全で適確な移動・移乗介助方法を学ぶⅢ（ストレッチャー・リフトの介助） | 33 利用者の状態・状況に応じた入浴介助の留意点Ⅱ（運動機能が低下している人の介助の留意点） |
| 12 安全で適確な移動・移乗介助方法を学ぶⅢ（安楽な体位の保持） | 34 利用者の状態・状況に応じた入浴介助の留意点Ⅲ（認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点） |
| 13 安全で適確な移動・移乗介助方法を学ぶⅣ（体位変換） | 35 他職種との協働とそれぞれの役割 |
| 14 安全で気兼ねなく動けることを支える介護の工夫。 | 36 睡眠の意義・目的 |
| 15 利用者の状態・状況に応じた移動介助の留意点Ⅰ（感覚機能が低下している人の介助の留意点） | 37 睡眠に関する利用者のアセスメント |
| 16 利用者の状態・状況に応じた移動介助の留意点Ⅱ（運動機能が低下している人の介助の留意点） | 38 安眠のための介護の工夫 |
| 17 利用者の状態・状況に応じた移動介助の留意点Ⅲ（認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点） | 39 安眠を促す介助の技法 |
| 18 他職種との協働とそれぞれの役割について | 40 利用者の状態・状況に応じた安眠介助の留意点Ⅰ（感覚機能が低下している人の介助の留意点） |
| 19 入浴の意義と目的 | 41 利用者の状態・状況に応じた安眠介助の留意点Ⅱ（運動機能が低下している人の介助の留意点） |
| 20 入浴における利用者のアセスメント | 42 利用者の状態・状況に応じた安眠介助の留意点Ⅲ（認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点） |
| 21 爽快感・安楽を支える入浴介助の工夫 | 43 利用者の状態・状況に応じた安眠介助の留意点Ⅳ（不眠時の対応） |
| 22 安全・適確な入浴・清潔保持の介助の技法Ⅰ（一般浴①） | 44 他職種との協働とそれぞれの役割 |
| 23 安全・適確な入浴・清潔保持の介助の技法Ⅰ | 45 総括 定期試験 |

【テキスト】『介護の基本』メジカルフレンド社（最新介護学全書）

【参考文献】

【授業形態】演習

【成績評価の方法】定期試験 70 %、レポート等提出物、授業参加度 30 %

63326

介護技術 A

S

濱田佐知子 武田盛夫

〔授業科目〕 自立に向けた基礎介護技術の習得

〔科目概要〕 生活をする上でその場に合った「身支度」を整えること、美味しく「食事」ができること、ひとが生きていくうえで欠かせないプライバシーが守られた「排泄」行為などの知識・技術を学習する。尊厳保持の観点から、「身支度」「食事」「排泄」において、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術・知識を習得する。

〔到達目標〕 身支度、食事、排泄に関する意義と目的を理解したうえで、生活支援の知識・技術を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------------------|
| 1 オリエンテーション 生活支援技術を学ぶ意義と目的 | 17 回目 食事の介助の技法と留意点④（誤嚥・窒息の防止と緊急時の対応） |
| 2 自立に向けた身支度の介護の意義と目的 | 18 回目 食事の介助の技法と留意点⑤（脱水予防と水分補給の方法） |
| 3 ICFに基づくアセスメント | 19 回目 他職種との協働とそれぞれの役割 |
| 4 生活習慣からその人らしい装いと楽しみ・活動参加を支える介護 | 20 回目 自立に向けた排泄の意義と目的 |
| 5 身支度の介助の技法と留意点①衣服の着脱の介護 | 21 回目 ICFに基づくアセスメント |
| 6 身支度の介助の技法と留意点②整容の介護 | 22 回目 快適かつ尊厳を保持した安全・的確な排泄支援 |
| 7 身支度の介助の技法と留意点③口腔の清潔の介護 | 23 回目 排泄の介助の技法と留意点①（トイレ誘導と介助） |
| 8 身支度の介助の技法と留意点④利用者の状態に応じた方法 | 24 回目 排泄の介助の技法と留意点②（ポータブルトイレ） |
| 9 他職種との協働とそれぞれの役割 | 25 回目 排泄の介助の技法と留意点③（尿器・便器） |
| 10 自立にむけた食事の意義と目的 | 26 回目 排泄の介助の技法と留意点④（おむつ） |
| 11 ICFに基づくアセスメント | 27 回目 排泄の介助の技法と留意点⑤（利用者の状態に応じた介助1） |
| 12 美味しく、安全に食べるための支援 | 28 回目 排泄の介助の技法と留意点⑥（利用者の状態に応じた介助2） |
| 13 咀嚼・嚥下のメカニズム | 29 回目 他職種との協働とそれぞれの役割 |
| 14 食事の介助の技法と留意点①（感覚機能が低下している人の場合） | 30 回目 定期試験・まとめ |
| 15 食事の介助の技法と留意点②（運動機能が低下している人の場合） | |
| 16 回目 食事の介助の技法と留意点③（認知・知 | |

〔テキスト〕 開講時提示する

〔参考文献〕 講義の際適宜紹介する

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験・発表（70%）、レポート・平常点（30%）

63327

形態別介護技術 B

S

能田茂代

〔概要〕 内部障害者の介護のために必要となる関連医学領域の基礎知識、保健・医療・福祉関係者との連携について理解するとともに、重複障害児（者）の介護のために必要な知識、技術について、講義、演習をとおして学ぶ。

〔到達目標〕 ・内部障害を持つ対象者の介護のために必要な基本的知識を習得する。 ・重症心身障害児の介護のために必要な基本的知識を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------------------|----------------------------|
| 1 内部障害について関連医学領域の基礎知識の理解、介護上の諸問題 | 8 施設における内部障害者の介護と他職種との連携 |
| 2 内部障害者の介護における保健・医療・福祉関係者との連携について | 9 在宅における内部障害者の介護と保健医療福祉の連携 |
| 3 心臓機能障害者の介護 | 10 内部障害者を介護している家族の理解と支援 |
| 4 腎臓機能障害者の介護 | 11 重複障害の起因となる基礎知識の理解 |
| 5 呼吸機能障害者の介護 | 12 重複障害児・者を介護している家族の理解と支援 |
| 6 膀胱・直腸機能障害者の介護 | 13 重複障害児・者を介護 その1 |
| 7 内部障害のある高齢者の介護 | 14 重複障害児・者を介護 その2 |
| | 15 重複障害児・者の生活支援および定期試験 |

〔テキスト〕 福祉士養成講座編集委員会編『形態別介護技術』（中央法規）

〔参考文献〕 薄井規子著『ナースが視る人体』（講談社）、薄井規子著『ナースが視る病気』（講談社）

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験70%、授業への参加等平常点10%、小テスト・レポート等提出物20%

63327

形態別介護技術 C

W 濱田佐知子

〔授業題目〕形態別による介護技術

〔授業全体の内容の概要〕精神障害者の介護、肢体不自由（運動機能障害）者の介護、重複障害者の介護、居宅での介護について講義と演習を行い、事例研究を通して形態別介護技術の総まとめとして、具体的な介護の展開（福祉用具の使用方法も含む）を習得させる。

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕精神障害者の介護、肢体不自由（運動機能障害）者の介護、重複障害者の介護、居宅での介護について理解し、知識や技術を習得させる。さらに各高齢者、障害者の特性に応じた生活を支援できることを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|---|---|
| 1 精神障害者の介護Ⅰ（介護上の諸問題と保健医療関係者との連携） | 15 重複障害者の介護Ⅴ（盲知的障害者の基本的理解と介護） |
| 2 精神障害者の介護Ⅱ（精神障害者の日常生活介護の実際） | 16 重複障害者の介護Ⅵ（盲肢体不自由重複障害者の基本的理解と介護） |
| 3 精神障害者の介護Ⅲ（家族への援助） | 17 居宅での介護Ⅰ（個別の生活環境に対応した介護の工夫・利用者本人の生活習慣や主体性の尊重） |
| 4 精神障害者の介護Ⅳ（社会復帰施設・グループホーム等での日常生活介護の実際） | 18 居宅での介護Ⅱ（保健医療福祉関係者との連携） |
| 5 精神障害者の介護Ⅴ（事例より、精神障害者の社会復帰と自立支援） | 19 居宅での介護Ⅲ（食事、入浴、排泄の日常生活介護の実際） |
| 6 肢体不自由者の介護Ⅰ（関連医学領域の基礎知識） | 20 居宅での介護Ⅳ（家族への援助と介護指導方法） |
| 7 肢体不自由者の介護Ⅱ（介護上の諸問題） | 21.22 居宅での介護Ⅴ（事例より、要介護度から利用者の希望を尊重した家事・複合・身体介護） |
| 8 肢体不自由者の介護Ⅲ（残存機能の理解） | 23.24 事例研究Ⅰ（重度身体障害者のバリアフリーと社会生活の拡大） |
| 9 肢体不自由者の介護Ⅳ（事例より、肢体不自由者の日常生活介護の実際①コミュニケーション） | 25.26 事例研究Ⅱ（精神・知的の重複障害のある利用者の自立について） |
| 10 肢体不自由者の介護Ⅴ（事例より、肢体不自由者の日常生活介護の実際②移動） | 27.28 事例研究Ⅲ（アルコール依存症と糖尿病による視力障害をとまなう利用者の生活支援について） |
| 11 重複障害者の介護Ⅰ（重症心身障害児・者の基本的理解） | 29 事例研究Ⅳ（在宅でリビングウィルの視点からターミナルケアの取り組みについて） |
| 12 重複障害者の介護Ⅱ（重症心身障害児・者の生活の理解） | 30 定期試験とまとめ |
| 13 重複障害者の介護Ⅲ（重症心身障害児・者の日常生活介護の実際） | |
| 14 重複障害者の介護Ⅳ（事例より、保健医療福祉関係者との連携） | |

〔テキスト〕福祉士養成講座編集委員会編『形態別介護技術』（中央法規）

〔参考文献〕適宜紹介する

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕定期試験 70 点、レポート・平常点 30 点

63328

形態別介護技術（点字）

W 木戸口恭子

〔授業題目〕点字の基礎技術を身につける

〔授業目的・ねらい〕老人や障害者の特性に応じた介護に関する知識や技術を習得させる。また、その時求められる介護に必要な態度についても学ぶ。さらに、各種福祉用具について理解させると共に、その使用方法及び使用介助方法を習得させる。〔授業全体の内容の概要〕視覚障害者についての基礎知識を理解し、視覚障害に起因する介護上の諸問題について事例を通して学ぶとともに、コミュニケーションの手段として、点字について基礎的な知識と技術について実際に演習しながら指導する。

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕視覚障害者についての基礎知識を理解し、さらに、コミュニケーションの手段として、基本的な点字が理解できる能力を養うことを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------------------------|------------------------|
| 1 視覚障害者の介護Ⅰ（関連医学領域の基礎知識） | 7 点字Ⅲ（点字の読み方） |
| 2 視覚障害者の介護Ⅱ（視覚障害に起因する介護上の諸問題） | 8 点字Ⅳ（点字の読み方） |
| 3 視覚障害者の介護Ⅲ（残存感覚機能の特性と活用） | 9 点字Ⅴ（点字の表記、かなづかい） |
| 4 視覚障害者の介護Ⅳ（視覚の代行と福祉用具、視覚障害を伴う重複障害） | 10 点字Ⅵ（点字の表記、かなづかい） |
| 5 点字Ⅰ（点字と墨字） | 11 点字Ⅶ（点字の表記、アルファベット） |
| 6 点字Ⅱ（点字の特徴） | 12 点字Ⅷ（マスあけに慣れる、文章を書く） |
| | 13 点字Ⅸ（文章を書く） |
| | 14 点字Ⅹ（点字での手紙、ハガキの書き方） |
| | 15 定期試験およびまとめ |

〔テキスト〕『初めての点訳』（全国視覚障害者情報提供施設協会）

〔参考文献〕『形態別介護技術』（中央法規）

〔授業形態〕演習・一部講義を含む

〔成績評価の方法〕定期試験70%、平常点30%

63329

形態別介護技術（手話）A・B

S・W 山本依子

〔概要〕 聴覚及び言語障害者についての基礎知識を理解し、聴覚及び言語障害に起因する介護上の諸問題について事例を通して学ぶとともに、コミュニケーションの手段として、手話の基礎的な知識と技術を実際に演習しながら指導する。

〔到達目標〕 聴覚・言語障害者についての基礎知識を習得することにより、聴覚・言語障害者を理解し、手話でのコミュニケーションの方法を身につける。

〔授業計画〕

- | | |
|--|--|
| 1 <講義>耳のしくみ <手話>身振りで伝える | 16 夏学期復習 |
| 2 <講義>聴覚障害者とは<手話>身振りで伝える（口、目、耳、鼻等身体の各部分） | 17 <講義>手話について<手話>自己紹介・住所 |
| 3 <講義>聴覚障害者の生活の困難・福祉用具<手話>自己紹介・名前、あいさつ | 18 <手話>自己紹介・道をたずねる |
| 4 <講義>聴覚障害者のコミュニケーション方法<手話>自己紹介・名前 | 19 <講義>手話通訳とは<手話>会話・一日について |
| 5 <講義>聴覚障害者のコミュニケーション方法の注意点<手話>自己紹介・家族 | 20 <講義>聴覚障害者と福祉制度<手話>会話・一ヶ月について |
| 6 <手話>自己紹介・指文字 | 21 <講義>ろうあ運動 <手話>会話・一年について |
| 7 <講義>聴覚障害者の趣味について<手話>自己紹介・趣味、歌 | 22 <講義>聴覚障害者と介護の諸問題<手話>会話まとめ |
| 8 <手話>自己紹介・好きな食べ物 | 23 <講義>聴覚障害者の医療問題<手話>話しあってみましょう・老人施設 |
| 9 <講義>ろう教育。残存感覚機能の特性と訓練、活用<手話>自己紹介・誕生日 | 24 <講義>ろう重複障害者について<手話>何かお手伝いしましょうか？・老人施設 |
| 10 <手話>数字の表現・お金、時間、年齢 | 25 <手話>物語を手話で表現 |
| 11 <講義>聴覚障害者と労働 <手話>仕事 | 26 <手話>物語を手話で表現 |
| 12 <特別講義>ろう講師の講演と会話練習 | 27 <特別講義>ろう講師の講演と会話練習 |
| 13 <手話>夏学期まとめ | 28 <手話>実技まとめ |
| 14 <手話>実技テスト手話表現 | 29 <手話>実技テスト・手話で3分間スピーチ |
| 15 定期試験・筆記、読みとりと解説 | 30 定期試験・筆記、読みとりと解説 |

〔テキスト〕 全国手話研修センター編、「新手話教室入門」、出版社 財団法人全日本ろうあ連盟出版局。『新手話教室入門』対応 実用手話単語集」編集委員会、『新手話教室入門』対応 実用手話単語集、出版社 財団法人全日本ろうあ連盟出版局。全国手話通訳問題研究会編、聴覚・言語障害者とコミュニケーション、出版社 一橋出版株式会社

〔参考文献〕 福祉士養成講座編集委員会編 『形態別介護技術』 中央法規

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 50 %、手話実技 40 %、平常点 10 %

63330

介護実習（第二段階）

S・W 笠原幸子 能田茂代 濱田佐知子 武田盛夫 中元和子

介護実習（訪問介護実習）

介護実習（第三段階）

〔授業科目〕 講義、演習、学内実習で学んだ知識に基づいて利用者との人間的な関わりを深め、利用者が求めている介護の需要に関する理解力、判断力を養う。実習指導者の指導を受けながら介護計画の立て方や記録の仕方について学び、チームの一員として介護を遂行する能力を養う。施設介護実習では、施設の運営や在宅介護との連携並びに通所サービスにも参加し、要介護老人、障害者等に対するサービス提供全般における介護の職務の理解を深める。在宅介護実習では、家庭を訪問して介護を行う訪問介護について理解を深める。

〔概要〕 学生の講義、演習、学内での実習の進度に応じて、施設介護実習（第2段階、第3段階）と在宅介護実習を実施する。

〔到達目標〕 学外実習の意義と重要性について理解し、積極的な姿勢で学外実習に参加し、利用者与人間的な関わりを経験し、介護の職務の理解を深めることを到達目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|--|--|
| 1 第2段階施設介護実習（136時間）
平成21年6月1日（月）～6月23日（火） | 時間とする。ただし、第2段階および第3段階において「夜間実習」等の経験を実習受け入れ施設に求め、承諾された場合などについては、1日の実習時間に変動がでることもある。 |
| 2 訪問介護実習（40時間）
平成21年6月24日（水）～6月30日（火） | 介護実習の詳細については「実習の手引」などにより説明する。 |
| 3 第3段階施設介護実習（160時間）
平成21年11月9日（月）～12月5日（土）
原則として実習時間は、1日8時間、1週40 | |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 講義の際適宜紹介する

〔授業形態〕 実習

〔成績評価の方法〕 実習評価は、各実習段階ごとに総合評価を行う。ただし、実習規程日数の4/5以上出席しない場合は不合格となる。実習先の評価30%、実習ノート20%、実習報告書50%

63341

介護実習指導B

S 笠原幸子 能田茂代 濱田佐知子 武田盛夫 中元和子

〔概要〕 実習体験で学んできた内容の重要性について理解させ、学内で学んだ知識・技術・態度が介護実習中に、総合的に臨機応変に使いこなせるよう指導する。最終目標として、専門職に求められる資質や能力、総合的対応能力を身につける。施設介護実習前後の指導、訪問介護実習指導、事例研究などの授業を通して、学内の講義、演習と学外の実習が結びついて理解できるようにする。さらに、第1段階実習後の指導と第2段階実習及び訪問介護への課題を具体的に指導する。

〔到達目標〕 第1段階実習に対する十分な事後指導に努め、第2段階実習及び訪問介護実習をより積極的に効果的に取り組めるようにする。さらには、これら一連の実習を通して、これまでの学習が統合化され臨機応変に駆使できるようになることを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------------|----------------------------------|
| 1 回目 第1段階実習の個別指導 | 10 回目 実習前オリエンテーション |
| 2 回目 第1段階の報告会 | 11 回目 中間帰校日（実習前半の振り返りと後半に向けての指導） |
| 3 回目 第1段階の報告会 | 12 回目 中間帰校日（実習前半の振り返りと後半に向けての指導） |
| 4 回目 訪問介護実習について | 13 回目 第2段階実習・訪問介護実習の振り返り |
| 5 回目 第2段階実習・訪問介護実習に目標確認 | 14 回目 第2段階実習・訪問介護実習の報告会 |
| 6 回目 実習計画書の指導 | 15 回目 第2段階実習・訪問介護実習の報告会 |
| 7 回目 実習計画書の指導 | |
| 8 回目 介護過程の概要 | |
| 9 回目 介護計画の立案・実施・評価について | |

〔テキスト〕 能田茂代編『介護総合演習』メヂカルフレンド社

〔参考文献〕 講義の際、適宜紹介

〔授業形態〕 講義・演習・実習・発表

〔成績評価の方法〕 実習報告・レポート等80%、平常点20%

63341

介護実習指導 C

W 笠原幸子 能田茂代 濱田佐知子 武田盛夫 中元和子

〔概要〕 一段階、二段階介護実習の実習体験、事後指導を踏まえ、各学生が最終実習での課題を明確にして三段階介護実習に取り組めるよう指導する。そのために、事前指導では介護過程についての復習、実習計画作成のための個別指導を行う。また、実習後は、実習報告会において体験を共有し学習を深めることができるように展開する。

〔到達目標〕 ・施設における各職種の役割を理解し連携について学ぶ。 ・施設が地域に果たしている役割について学ぶ。 ・利用者1名を担当し、介護計画の立案・実施・評価ができる。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------------------|-----------------------|
| 1 二段階介護実習評価及び振り返り 三段階介護実習オリエンテーション | 間帰校日) 事務連絡等 |
| 2 三段階介護実習の意義と目的 (必要書類配布) | 9 実習報告会及び実習報告書作成について |
| 3 実習計画指導 | 10 実習事後指導 (各グループ及び個別) |
| 4 〃 | 11 〃 (〃) |
| 5 介護過程の展開 | 12 実習報告会 |
| 6 〃 | 13 〃 |
| 7 実習直前のオリエンテーション | 14 〃 |
| 8 実習後半に向けての指導 (学内での指導、中 | 15 実習評価に基づく指導・総括 |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 『介護福祉実習指導』 メジカルフレンド社 (最新介護福祉全書)

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 実習報告レポート等 80 %、平常点 20 %